

日本舞踊の心と技

(日本舞踊 若柳流) 若柳 佑輝子

1. 緒言 ～ 日本舞踊の重要無形文化財指定

この度、日本舞踊が国の重要無形文化財として指定を受け、これに伴い日本舞踊保存会の構成員が保持者として総合認定されました。

令和 5 年 7 月 21 日に開催された文化庁文化審議会の審議を経て、日本舞踊が国の重要無形文化財として指定を受け、これに伴い日本舞踊保存会の構成員が保持者として総合認定されました。保持者は日本舞踊家 40 名、演奏家 16 名です。

2. 日本舞踊・舞踊家の始まり

日本舞踊は歌舞伎から派生したものです。今から 420 年前の 1603 年、徳川家康が江戸幕府を開いた年に、出雲の「阿国」が四條河原で踊った「阿国歌舞伎」が歌舞伎の原点とされ、その後、能楽や人形浄瑠璃等から題材を得て歌舞伎が成り立ちました。その振付師が独立して町の師匠となり、日本舞踊を一般に人に教え広めたのが舞踊家の始まりです。

3. 日本舞踊の五大流派・若柳流について

日本舞踊の五大流派(西川流・藤間流・坂東流・花柳流・若柳流)の一つである若柳流は、明治 26 年東京・蔵前で創流し、全国の花柳界を中心に発展した流儀です。花柳界で発展したため手振りが多く、品のある舞踊であると評されています。指の先から足の先まで神経を行き届け、しなやかに踊ることが心がけられております。

4. 立居振舞・礼儀作法・板につく

日本舞踊は立居振舞・礼儀作法を重んじます。美しい立居振舞は正しい姿勢を崩さず、「立つ」「座る」「歩く」という基本的な動作が大切です。礼に始まり礼に終わる、「日本人のこころ」を大切にしています。また、舞台には天の神様・地の神様、また、相撲の土俵と同じく四方に神々が宿り、それと同時に邪気も宿ります。従って、天の神様を崇める振り・地の神様を踏み治める足拍子に加えて、四方へ進んで邪気を払う振りが必ず随所に出てまいります。

5. 「舞」と「踊り」の違い

両者は一線を画す別物です。「舞」は能の中で舞われる舞のことで、京舞は井上流・篠塚流、上方舞は榎茂都流・山村流・吉村流等があります。「踊り」は江戸舞踊のことで江戸の粋(すい)を表現し江戸前を信条としており、身体を使って色々な人物・風物・風景を演じ分けます。現在、京都を拠点に活動する女流舞踊家「京躍花」として、尾上 京・花柳 双子・井上 安寿子・若柳 佑輝子がいます。写真 1 は京躍花による長唄「娘道成寺」の一幕で、ロームシアター京都で行われたものです。

6. 「能楽から題材を取ったもの」「歌舞伎から移したもの」「素踊り」について (写真 2-4)

能楽は元来神様に見ていただくもので、五穀豊穡や天下泰平を祈願し舞われました。歌舞伎から題材を得た舞踊には「鏡獅子」「京鹿子娘道成寺」「藤娘」などがあります。日本舞踊独自の素踊りとは、背景となる道具を飾らず、紋付・袴または着流しで踊ることです。但し、女性舞踊家の場合は「前割れ」や「高島田」の髷を付け、特定の役柄にならない扮装をして踊ります。また、白・黒・赤の三色だけで描く「白塗り」は歌舞伎舞踊唯一の化粧法です。



写真 1 京躍花による長唄「娘道成寺」

特別講演



写真2：長唄「静と知盛」
＜能楽から題材を取ったもの＞



写真3：長唄「京鹿子娘道成寺」
＜歌舞伎から移したもの＞



写真4：長唄「連獅子」
＜素踊り＞

7. 西洋の踊り「バレエ」と日本の踊り

バレエの「白鳥の湖」「瀕死の白鳥」に対して、日本舞踊には「鶯娘」という踊りがあります（写真5、6）。西洋のバレエは、爪先立ちをしたり、高く跳び上がったたり、より天の神様に近づくような動作が多いように見受けられます。それとは対照的に日本の芸能は、重心を低くかがめて地面に深くかかわろうとします。これは、やはり日本と西洋とは信仰する神様・仏様が違うということと、日本人が古来より農耕民族であることに由来すると思われる。



写真5：長唄「鶯娘」



写真6：長唄「鶯娘」

8. 日本舞踊の伴奏・三味線音楽

日本舞踊の伴奏には、長唄・義太夫・豊後節・常磐津・富本・清元・地唄、箏曲・小唄等があります。三味線は弦が三弦からなる楽器です。三味線と共に唄い手がいます。唄い手は、四季の移ろい、時代、情景や物語を説明する役割を担っています。また、効果音となる囃子も必要不可欠です。鼓、大鼓、太鼓、笛等が波音・風音・雨音となり作品をより分かりやすく盛り上げます。

9. 踊りの魅力

日本舞踊は色々な役を演じ、その時代にタイムスリップして、時にはお姫様、時には歴史上の人物、また江戸の風物を写す物売りなどに身を置くことが出来ます。

様々な場所で様々な人物になり、様々な感情を表現する振りを通して、姫、町娘、町人、武士等の役柄の想いを伝えるのが、舞踊家の仕事です。また、扇子や小道具の扱いはとても重要です。様々な暮らしの様子を扇子一本で表現したり、実際の小道具を使ったりして演じることで、お客様により分かりやすく伝わるよう工夫しています。

10. 結言：近年の舞踊活動・新作舞踊について

近年、家元が理事を勤め、私も所属している公益社団法人日本舞踊協会では古典の舞踊技法を基にした新しい日本舞踊の創造に取り組んでいます。名作マンガや西洋の戯曲の日本舞踊化など、現代に息づく日本舞踊の新しいかたちを思索し、挑戦しております。私はピノキオを題材にした「檜男」、「銀河鉄道 999」（写真7）等に出演させていただきました。また、上記5. でも述べました通り「京躍花」を結束し、日本舞踊を少しでも身近に感じていただけるよう、裾広げに努めております。



写真7 新しい日本舞踊の創造
「銀河鉄道 999」